

## 北海道の観光活性化 に向けて —開拓歴史の絆を生かした 姉妹都市交流の拡大—



小長井 宣生 (こながい のぶお)

八千代エンジニアリング(株)北海道営業所技師長

元北海道開発局留萌開発建設部長を経て現職。  
平成5年2月5日技術士建設部門の資格を取得。  
令和5年5月12日に春の叙勲で瑞宝小綬章を受章。

### 1 提言の背景

北海道開拓の歴史（以下本文中では開拓歴史と記述）を観光振興に生かすべきという考えは、もともと平成28（2019）年に行われた北海道150年道民検討会議の意見募集に、筆者が応募したものをベースとしています。

北海道観光入込客数の推移<sup>\*1</sup>を見ると、コロナ禍の2020～2021年の2か年は外国人客ゼロであったが、道外客は200万人以上訪れており、2023年度の全体4,777万人の内、道外客は505万人で外国人客234万人の2倍以上、全体の約10%強でこの割合は過去10年間ほぼ変わっていません。外国人客が、国のインバウンド拡大政策のもと年々増加しているのに対して、道外客数は伸びておらず、北海道の食と観光地が全国でも人気が高いことを考え合わせると、この道外客をターゲットとした誘致策の強化こそが、今北海道観光に求められると考えます。

開拓歴史の絆<sup>きずな</sup>を生かした姉妹都市交流の拡大は、このような道外客誘致策の一つであり、また、従来から道民の中にあった、“開拓”に対するネガティブなイメージを払拭し、これを、次世代に引き継ぐ新たな北海道資産として再生させるものです。

### 2 開拓歴史の絆と姉妹都市交流の現状

明治2年に函館に北海道開拓使が置かれて以来、明治、大正、昭和にかけて青森県から沖縄県までの全都府県から、300万人以上の人々が北海道に開拓のため移住し、今日の発展の基礎を築いてまいりました。

全国から入植した道内の市町村数は、表1に示すように122に上り全道179の約7割を占めています。移住者の出身県を見ると、1位が青森県で、以下10位までが地理的に近い東北6県と北陸4県で占められており、北海道との絆が深いことがわかります<sup>\*2</sup>。

道内市町村について、本州との姉妹都市交流の現状を見ると、全体で158件あり、このうち開拓にかかわるものは表2に示すように48件、36市町村と交流件数

の3割、入植市町村数の3割とまだ少ない状況にあり これを見ると、まだまだ開拓を縁とした交流拡大の余  
 ます。また、「開拓姉妹都市」と明確に開拓に関連す 地が大きいと言えます。  
 るものは、帯広市と静岡県松崎町の1事例のみです。

表1 全国から開拓移住した道内市町村

石狩	札幌市、江別市、北広島市、石狩市、恵庭市、千歳市、当別町の7市町
渡島	北斗市、木古内町、八雲町、長万部町の4市町
檜山	厚沢部町、乙部町、せたな町、今金町の4町
後志	余市町、仁木町、共和町、倶知安町、京極町、喜茂別町、留寿都村、真狩村、黒松内町の9町村
空知	岩見沢市、美瑛市、芦別市、赤平市、三笠市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、浦臼町、新十津川町、秩父別町、雨竜町、北竜町の18市町
上川	旭川市、士別市、名寄市、富良野市、鷹栖町、当麻町、愛別町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村、剣淵町、美瑛町の14市町村
留萌	小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町の6町村
宗谷	幌延町、稚内市、浜頓別町、中頓別町、枝幸町の5市町
オホーツク	北見市、網走市、紋別市、大空町、美幌町、津別町、斜里町、小清水町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部町、雄武町の16市町
胆振	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、豊浦町、洞爺湖町、厚真町、むかわ町の8市町
日高	日高町、平取町、新ひだか町、浦河町、様似町の5町
十勝	帯広市、音更町、士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、浦幌町の16市町村
釧路	釧路市、釧路町、厚岸町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町の7市町村
根室	根室市、中標津町、標津町の3市町
合計	122市町村

\* 2 北海道開拓の村解説シート「移住」2021年8月1日より作成

表2 道内市町村の姉妹都市（開拓にかかわるもの）

	道内市町村	本州提携先	交流内容	開拓移住の経緯*4
1	伊達市	宮城県柴田町	歴史友好都市 1988/5/30	明治3年(1870)旧仙台藩柴田家の一部が入植
2	同	宮城県亶理町	ふるさと姉妹都市 1981/4	明治3年旧仙台藩亶理領主伊達邦成ら250人が入植
3	同	福島県新地町	同 1982/7	明治3年旧仙台藩の人々が入植
4	同	宮城県山元町	同 1988/4	同
5	芽室町	岐阜県揖斐川町	友好都市 2006/5 芽室岐阜県人会、ふるさと訪問ツアー	明治29年(1896)旧坂内村から岐阜団体が入植
6	岩見沢市	山梨県南アルプス市	姉妹都市 2004	明治27年(1894)旧鏡中条村出身の北村雄治ら130人が入植
7	釧路市	鳥取県鳥取市	姉妹都市 1963/10/4	明治17年(1884)~18年鳥取士族105戸513人が釧路市に入植
8	札幌市白石区	宮城県白石市	友好都市 1976 中学生の主張発表会交流 夏祭りへの参加	明治4年(1871)旧仙台藩白石城主片倉家伊達景範ら62戸、その後佐藤家老ら600人が入植
9	赤平市	石川県加賀市	友好都市 1995/10/10	明治28年(1895)加賀団体が入植
10	帯広市	静岡県松崎町	開拓姉妹都市 1978/5/20	明治16(1883)年松崎町出身依田勉三のら晩成社13戸27人が入植
11	登別市	宮城県白石市	姉妹都市 2015/5/18 青少年スポーツ交流や物産交流、小中学生相互訪問	明治2年(1869)旧仙台藩白石城主片倉邦憲らが旧幌別村に入植
12	苫小牧市	東京都八王子市	姉妹都市 1973/8/10	寛政12年(1800)原半左工門ら八王子千人同心100人が勇武津、白糠に入植
13	北見市	高知県佐川町	姉妹都市 1988/11/6	明治28年(1895)土佐開拓団が常呂に入植
14	同	高知県高知市	姉妹都市 1986/4/28	明治30年(1897)北光社が北見に入植
15	同	岐阜県大野町	友好都市 1988/10/3	明治30年(1897)旧稲富村の岐阜集団21戸が常呂に入植
16	北広島市	東広島市	姉妹都市 1980/7/19	明治17年(1884)東広島市出身の25戸103人が入植
17	名寄市	山形県鶴岡市	姉妹都市 1996/8/1	明治33年(1900)東栄村(旧藤島町)から太田豊治ら入植
18	真狩村	香川県観音寺市	姉妹町村 1991/10/19	明治28年(1895)神原弥吉ら入植。大野原町からも入植
19	沼田町	富山県小矢部市	姉妹都市 2001/8/24	明治27年(1894)開祖沼田喜三郎ら18戸が小矢部市から入植

	道内市町村	本州提携先	交流内容	開拓移住の経緯*4
20	浦河町	熊本県天草市	友好都市 2015/3	明治4年(1871)畜産の先駆者本巢万太郎ら21戸90人が旧河浦町から入植
21	音更町	岩手県軽米町	姉妹都市 1985/10/31	明治13年(1880)開祖大川宇八郎が軽米町から入植
22	浦臼町	高知県本山町	友好都市 1999/2/27	明治26年(1893)武市安哉が樺戸村に開いた聖園農場に本山町から入植
23	新十津川町	奈良県十津川村	母村交流 2017/8	明治22年(1889)10月、8月の水害被害者600戸3000人が十津川村から入植
24	せたな町	愛知県豊山町	友好都市 2019/11/14	明治26年(1893)豊山町から入植
25	上富良野町	三重県津市	友好都市 1997/7/30	明治30年(1897)田中常次郎ら三重団体が旧安藤村から入植
26	大樹町	福島県相馬市	姉妹都市 1983/3/3	明治20年(1887)相馬市から石坂へ入植
27	中頓別町	広島県大崎上島町	姉妹都市 1990/10	明治37年(1904)開祖橋原民之助が大崎上島町から入植
28	木古内町	山形県鶴岡市	姉妹都市 1989/4/27	明治18年(1885)～19年旧庄内藩士105戸が鶴岡市から入植
29	新得町	山形県東根市	友好都市 1994/10/31	明治32年(1899)村山和十郎ら13戸が旧高崎村から入植
30	比布町	滋賀県湖南市	友好交流 2004/12/4	明治28年(1895)谷定徳ら20戸が旧下田村から入植
31	訓子府町	高知県津野町	姉妹都市 2001/5/8	明治30年(1897)北光社の澤本楠弥ら400人元山村から入植
32	当別町	宮城県大崎市	姉妹都市 2000/10/12	明治5年(1872)旧仙台藩旧岩出山出身伊達邦直ら161人当別町に入植
33	豊頃町	福島県相馬市	姉妹都市 1983/3/3	明治30年(1897)二宮尊親(尊徳の孫)の興復社180戸が豊頃町に入植
34	本別町	徳島県小松島市	友好都市 2001/6/1	明治30年(1897)東條儀三郎ら旧立江村から勇足に入植
35	羽幌町	富山県南砺市	友好都市 1979/9/11	明治29年(1896)旧平村から40戸が入植
36	苫前町	三重県桑名市	友好町 1981/9	明治29年(1896)旧長島町から28人が入植
37	八雲町	愛知県小牧市	友好都市 1986/10/24	明治11年(1878)尾張徳川家藩主慶勝の指導下、11戸56人が小牧市などから入植
38	新ひだか町	兵庫県洲本市	姉妹都市 2007/5/6	明治4年(1871)静内開祖の洲本藩家老稲田邦直ら546人が春立に入植
39	同	徳島県美馬市	姉妹都市 2011/11/25	同 稲田家旧家臣ら旧脇町から入植
40	同	兵庫県南あわじ市	姉妹都市 1990/9/9	明治18年(1885)渡辺伊平ら53戸168人が旧西淡町から旧静内に入植
41	同	岩手県葛巻町	友好都市 1983/6/3	明治初期～中期、旧三石町延出地区に入植
42	同	新潟県糸魚川市	友好都市 1983/6/3	同、旧能生町から旧三石町港町、越海町に入植
43	同	福井県大野市	友好都市 1983/6/3	明治23年(1890)林孫右衛門ら8人が旧三石町歌笛、河上地区に入植
44	遠軽町	京都府綾部市	友好都市 2008/2/23	大正9年(1920)遠軽町の植芝盛平は綾部市に移住
45	同	和歌山県田辺市	友好都市 2008/2/23	明治45年(1912)植芝盛平ら紀州開拓団54戸80人が旧白滝村に入植
46	同	茨城県笠間市	友好都市 2008/2/23	昭和17年(1942)植芝盛平は東京から旧岩間町に移住
47	由仁町	愛知県碧南市	姉妹都市 1988/4/5	明治28年(1895)碧南市出身の加藤平五郎ら19人が三川地区に入植
48	余市町	福島県会津若松市	親善交流都市 2015/10/14	明治4年(1871)旧会津藩士宗川茂友ら193人が余市へ入植

\* 3 プログ「くにとりサーチ」2020年3月1日版に加筆

\* 4 市町村ホームページ、財界さっぽろ社長ブログ参照

### 3 開拓を縁とする姉妹都市交流の事例紹介

#### (1) 旧仙台藩からの移住

伊達市は、明治3年旧仙台藩柴田家中らが入植した縁で宮城県柴田町と友好都市を、また、旧仙台藩伊達邦成家老常盤新九郎の指導で入植した縁で、宮城県亘理町、福島県新地町、宮城県山元町とふるさと姉妹都市を締結し、産業、教育、文化、スポーツ交流を続けています。

札幌市白石区は、明治4年旧仙台藩白石城主片倉家老佐藤孝郷らが入植した縁で、宮城県白石市と友好都市を締結し、中学生の交流や夏祭り交流を続けています。

登別市は、明治2年旧仙台藩白石城主片倉邦憲らが幌別村に入植した縁で宮城県白石市と姉妹都市を締結し、スポーツ・物産交流、小中学生の相互交流を続けています。

当別町は、明治5年旧仙台藩岩出山の伊達邦直らが入植した縁で、宮城県大崎市と姉妹都市を締結し教育・文化・産業交流を続けています。また、最近大崎市の道の駅、「あ・ら・伊達な道の駅」にて、当別町に拠点を持つチョコレートメーカーのロイズが常設店を開設したことで話題となっていますが、これも開拓歴史の絆による新たな交流の一例と言えます。



## (2) 静岡県松崎町から帯広市への移住

帯広市は、明治16年伊豆松崎町出身の依田勉三が率いる晩成社が入植した縁により、開拓姉妹都市を締結し、小学生の相互交流や特産品の相互配布を行っています。市内には開祖依田勉三の銅像が建てられています。

## (3) 高知県、岐阜県から北見市への移住

北見市は、明治28年土佐開拓団が常呂町に入植した縁で、高知県佐川町と姉妹都市を、また明治30年北光社が北見市に入植した縁で、高知県高知市と姉妹都市を、さらに、明治31年岐阜開拓団が常呂町に入植した縁で、岐阜県大野町と友好都市を締結し、交流を続けています。

上記の3例以外にも、開拓歴史を契機とした道内の30市町村と本州各地との交流が続けられています(表2)。

## 4 北海道の観光活性化に向けて

これまで、北海道の開拓歴史の一部を見てきましたが、まだまだ道内外の市町村の郷土史に埋もれている開拓歴史は数多くあると思われます。これらを掘り起こし、データとして取りまとめ、全国に

発信することによって新たな姉妹都市交流拡大につながることを期待されます。

北海道の観光を活性化するための新たな方策として、唯一無二の開拓歴史の絆を生かした姉妹都市交流の拡大を提案します。

これにより、北海道の観光入込客数の増加、ふるさと納税の増加、移住促進などの経済波及効果が見込まれ、特に後の2つはインバウンド客の増加にはない効果であり、北海道の経済拡大に大きく貢献するものがあります。

表2にまとめたような国内姉妹都市のデータは、現在民間調査に基づくものしかなく、公的機関のデータはインバウンドによる国外都市のみに限られるといった偏った現状を、北海道から変えていく必要があります。

まず道内市町村に対して、開拓の絆に基づく交流要望の調査を実施したうえで、国、道は必要な支援策を講じていくことが必要です。

現在、北海道開発局では第9期北海道総合開発計画において、北海道の強みの一つである「観光」を一層強化するための施策を推進しています。また、国土交通省観光庁では、これまで横ばい傾向であった国内旅行市場の需要を拡大に転じさせるために、「新たな交流市場・観光資源の創出事業」を令和4年度から継続しており、令和7年度も376百万円の予算をもって「第2のふるさとづくりプロジェクト」などを推進しています。北海道の歴史資源である開拓歴史を生かして、この第2のふるさとづくりへ積極的に参画し、新たな交流人口の創出により観光経済の活性化を図っていくことも一つの方策と考えられます。

最後に、本文をまとめるに当たって開拓に関する資料をご提供いただいた、北海道開拓の村館長 中島宏一氏に謝意を表します。

- \* 1 国土交通省北海道運輸局、北海道の観光基礎データ 令和7年4月30日
- \* 2 北海道開拓の村、解説シート「移住」2021年8月1日
- \* 3 くにとりサーチ 2020年3月1日
- \* 4 市町村ホームページ、財界さっぽろ社長ブログ